

市立小学校の移転・統合に関する取組経過の報告

(これまでの経緯)

安芸市では、平成28年3月に安芸市保小中移転・統合検討委員会から、小学校を5校に再編する旨の報告書が提出されました。この報告書を参考にしつつ、市の財政計画、各学校の学習・防災環境、今後の学校のあり方等について、教育委員会事務局と市長部局で協議を重ねた結果、平成28年12月に小学校を2校にする方向性を打ち出しました。以降、平成29年度、令和6年度、令和7年度に説明会を実施し、検討を重ねてまいりました。

令和6年度の説明会では、小学校8校を2校とする方針を改めてご説明したところ、保護者や地域の皆さまからは、「事業を早く進める必要がある」、「地域に学校を残すべき」とのご意見が多く寄せられた一方、「児童の減少を考えると市に小学校は1校でよいのではないか」という一歩踏み込んだご意見もいただきました。

このため令和7年度の説明会では、これまでの2校案に加えて、新たに1校案についても説明を行いました。2校案の設置場所は、旧清水ケ丘中学校跡地1校と安芸第一小学校の1校。1校案の設置場所は、市立安芸中学校周辺に新設、または旧清水ケ丘中学校跡地への建替えを提示しました。併せて保護者及び教職員を対象としたアンケート調査を実施しています。※結果は、今月号折り込みをご覧ください。

(なぜ移転・統合が必要なのですか?)

南海トラフ地震では、本市において最大14.8mの津波が想定されています。市内の小学校8校のうち、6校で校舎1階以上の浸水が想定されており、子どもの命を守ることを最優先に考える必要があります。

加えて、今後の人口減少・少子化により、学校規模の縮小や完全複式学級の増加が見込まれ、子どもたちの教育環境を整え充実していく必要があります。また、各施設の老朽化により、今後ますます維持管理の負担が増していくことが見込まれ、これらの全てに対応していくことが必要となっています。

(今後どのような計画で移転・統合を進めるのですか?)

本市の小学校が置かれた状況や、これまで実施した説明会でのご意見、アンケート調査の結果等を参考に、令和8年6月に市長が方針を決定いたします。決定内容は、次回の広報折込にて改めてご報告いたします。その後、事業に必要な予算の議会議決を経て、基本構想、基本計画、基本設計、実施設計を順次進め、各種工事を発注いたします。併せて、開校準備委員会を設置し、学校理念や基本方針を検討のうえ、安芸市の特色ある統合小学校に向けた整備を行います。

(統合小学校のメリットは何ですか?)

- ① 子どもの命を守る：安全な場所へ移転することで、南海トラフ地震から子どもたちの命を守ります。
- ② 多様な学びの実現：多くの仲間の中で多様な考え方にふれ、認め合い、切磋琢磨することを通じて、一人ひとりの資質・能力をさらに伸ばすことができます。
- ③ 施設環境の向上：学校を建替えるため、施設環境が格段に向上します。
- ④ 持続可能な学校運営：児童数の減少に対応した持続可能な学校運営が実現できます。
- ⑤ 教育予算の集中投資：将来に渡り施設・設備・人材を充実させ、子どもたちの学びの質が向上します。

(今後、説明会を行う予定はありますか?)

小学校の移転・統合の方針が決定したのち、改めて保護者・地域住民の皆さまを対象とした説明会を実施する予定です。

令和7年度 小学校移転・統合地域説明会で出された主なご意見とご質問

(期間) 令和8年1月13日～2月5日 (場所) 市立8小学校 (参加者) 保護者33人、住民46人

(1) ご意見

【統合の校数・方針】

- ・ 児童の減少から1校が現実的。地域とのつながりの維持を考えた方がよい。
- ・ 3校、4校建てても無駄になることを考えたら、1校も考えないといけない。
- ・ 切磋琢磨、勉強、友達関係を大切に大人数の中で学習してもらいたく1校。場所は市役所、市立安芸中学校付近がいい。
- ・ 2校建てても、子どもが減り1校の話がでるのではないか。
- ・ 住民が多い地域にあった方がいい。2校がいい。
- ・ 1校は絶対に反対。他の学校がなじめない、いじめ等の子どもの受け皿となっている。
- ・ 1校、2校には無理がある。メリットとするものの実現も疑問。長距離通学は子どもに負担。
- ・ 1校は安芸市の広さや地域性からどうなのか。2校、3校と、地域を生かすことを考えなくてはならない。
- ・ 1校では選択肢がない。小規模校の良さも考えてもらいたい。
- ・ 津波浸水想定区域内の学校は移転が望ましいが、小規模校の良さもあるので、残せるものは残した方がいい。
- ・ 小規模校と大規模校にすればいいと思う。
- ・ 統合は構わないが、この地域に学校を作るか残して欲しい。全て白紙にして検討して欲しい。
- ・ 国の指針に沿った人数でなく、安芸市として特色のある学校を作ると良い。

【災害・安全対策】

- ・ 安芸第一小学校は嵩上げしても孤立する。孤立しない場所が良い。
- ・ 安芸第一小学校は嵩上げしても安全性に疑問。
- ・ 安芸第一小学校は嵩上げし、ピロティーにしたら安全。
- ・ 1校にするメリットはあると思うが、想定外の災害を考えるとリスク分散も必要。
- ・ 市立安芸中学校付近には高台が無く、想定外の津波から逃げるできない。旧清水ケ丘中学校跡地なら高い所に逃げることができる。
- ・ 津波浸水想定区域の学校は怖い。
- ・ 仮校舎でもいいので、津波の心配のない所に移りたい。
- ・ 校舎も耐震化できていて、津波対策もしている。この地域から学校を無くさないように。

【立地・施設・通学】

- ・ 1校の場合、清水ケ丘中学校跡地はない。2校の場合は市立安芸中学校付近と安芸第一小学校が妥当。
- ・ 旧清水ケ丘中学校跡地より市立安芸中学校付近がいい。
- ・ 小中学校が揃う市立安芸中学校付近がいいと思う。
- ・ 市立安芸中学校付近であれば、施設設備の共有ができ、交流もできる。
- ・ 旧清水ケ丘中学校跡地は広く海拔もあり、さらに上に逃げることができ立地がいい。
- ・ 旧清水ケ丘中学校跡地なら通学路の整備が必要。

- ・ 保育、小学校、中学校が近くにあれば、災害時、平時も連携面でメリットがある。
- ・ 伊尾木保育所横の避難場所を小規模特認校、避難所とすればいい。
- ・ 旧安芸中学校の予定は無いのか。3 階に避難できる。
- ・ スクールバスは必要。全員が乗れるようにして欲しい。
- ・ スクールバスを運用するより地元の学校が便利。
- ・ 遠距離通学は残酷。教育の均等を言うのなら通学は均等なのか。
- ・ 送り迎えを思うと住みにくい。
- ・ 子どもが思いっきり動ける広い学校を作って欲しい。

【地域・コミュニティへの影響】

- ・ 本当は反対したい。小学校は地域の拠点として、小学生と一緒に喜びを感じる福祉と思う。
- ・ 学校があつての地域であり統合には反対。地域の活性化と反対のことをしている。
- ・ 学校があつて地域がある。学校を残して欲しい。残すことを考えて欲しい。
- ・ 地域から子どもがいなくなると地域の活性化はない。
- ・ 学校が無くなる前提では、住むと言う人がいなくなる。
- ・ 地域の活動、取組に目を向けるべき。
- ・ この地域の小学校を統廃合する理由がない。学校が無くなると地域が冷える。人口問題と地域の活性化を含めて考えることが大事。
- ・ この地域の小学校を残したいが、津波のことも考えたら統合を進めてもらいたい。地域とのつながりを残す取り組みをしてもらいたい。
- ・ 廃校の活用もしっかりと考えて、地域との関わり等を継続できる仕組みを検討して欲しい。

【意思決定プロセス・スケジュール】

- ・ 慌てて統合する必要はない。地域が頑張っているので今できることをして欲しい。
- ・ 6 月決定は早すぎる。考える時間が必要。まずは緊急性の高い学校をなんとかしたらどうか。
- ・ 先送りにすべきではない。結論を急がないでとの声がある一方、親は早くとの思いが有る。
- ・ 平成 26 年から統合の話があるが、対応が遅い。平成 29 年から進んでいない。意見を聞いてずるずる延ばしている。早くして欲しい。
- ・ 災害に備えた命の問題の優先順位が高い。リーダーシップを取って決めなければならない。
- ・ 説明会の参加者が少ないのは問題。
- ・ 令和 6 年度の説明会での反対意見を受け止めてくれていない。
- ・ 学校教育課で決めていくのはおかしい。企画財政課や産業部門も関わるべき。
- ・ 教育、産業、環境を包括した安芸市のビジョンを持って提案して欲しい。関係課の全てが来て説明が必要。
- ・ 地域を残すことをまず話し合わなければならない。子どもを増やす政策、説明がない。全部 1 からのやり直しが必要。
- ・ 最初から地域住民の意見を聞く必要があった。パブリックコメントをしなければならない。
- ・ 保育所と小学校は一括に考えた方がメリットが有る。小学校も中学校と一緒にしたらいい。

【教育・子ども支援・保育連携】

- ・ 統合により不登校が増えるか心配。
- ・ 1 校しかなく、バス通学が必要な所で子育てをしたいと思わない。地域のコミュニティは子どもにとって大事な居場所。

- ・ 1校は絶対に反対、不登校になる。児童数やお金で検討するのでは、子どもが育たない。
- ・ 安上がりの建物を検討し、学校生活、命のことを考えることが大事。
- ・ 地域に小学校があったらいいが、1校ならいろいろな友達と知り合える。

(2) ご質問と回答

ご質問	回答
地域から小学校が無くなれば、地域は衰退します。	津波浸水想定区域外への小学校の移転は、子どもの命を守るために必要と考えています。また、教育の質の向上と持続可能な学校運営のためには、統合が必要となっています。 小学校は地域コミュニティの機能を有しており、地域への影響は認識しています。公民館活動や廃校活用等、地域が主体となった取組を行政がバックアップすることが必要だと考えています。
統合後も地域と学校の関りを維持する仕組みが必要ではないか。	地域と連携して、地域が児童を育てていく仕組みが必要と考えています。統合後も、地域学校協働本部やコミュニティースクールの仕組みを活用するとともに、居住地単位の地域学習等、地域との繋がりを大切にします。
令和8年6月に、校数や設置場所を決めるのは早すぎるのではないだろうか。	平成28年度に方針を示してから10年が経過しようとしています。移転・統合は、子どもたちの命を守るために早期に実現する必要があります。説明会では決定を急ぐべきでないとの意見がある一方、遅すぎるや、決定を先延ばしにするリスクについて、ご指摘をいただきました。
旧清水ケ丘中学校校舎を改築して活用したらどうだろうか。	校舎は昭和40年築で、老朽化が深刻です。改築しての利用には適さないと判断しています。
旧安芸中学校は、候補地としないのでしょうか。	旧安芸中学校の津波浸水想定深は3～5mであり、児童の安全を考えると候補地として適当でないと判断しています。
なぜ、小規模校が候補地にないのだろうか。統合は構わないが、地元に残してほしい。	小規模校については、教育の質の向上や学校運営の観点から統合が必要と判断する一方、小規模校が必要との意見もあることから、何らかの検討が必要と考えています。
通学・スクールバスをどう考えているのか。	スクールバス運行のたたき台として、1～3年生は通学距離が概ね2km以上、4～5年生は概ね4km以上と説明会でお示しました。今後、学校の設置場所の決定後に保護者の意見を聞きながら、開校準備委員会での協議・決定を考えています。なお、低学年児の通学については、特に配慮が必要であると考えています。
設置場所決定に向けてパブリックコメントを実施するのか。事業方式はPFI事業で行うのか。	これまで説明会を開催し、1校体制、2校体制、それ以外のご意見をお伺いしてきましたので、パブリックコメントは予定していません。PFI方式での実施は予定していません。

小学校移転・統合に関する資料は安芸市ホームページで公開しています。

<https://www.city.aki.kochi.jp/life/dtl.php?hdnKey=8677>

※今月号折り込みの「アンケート調査結果」もご覧ください。

発行元：安芸市教育委員会学校教育課

